

2011年度 卒業研究発表会が行われました

IBARAKI CHRISTIAN
UNIVERSITY

2011年12月17日、看護学部5期生の卒業研究発表会が行われました。

発表会には、今まで実習や研究でお世話になった方々も大勢訪れてくださり、緊張した面持ちで発表が進みました。4年生一人ひとりが熱弁をふるい、聴衆から思いがけない意見や質問が飛び交い、さらに内容の深まる研究になりました。

4年生からの感想

私は、大学での授業や実習を通して、精神保健・看護の分野に興味を持ちました。

その中でも、統合失調症の方がより早く病院を受診できるようにするためにはどのような看護が必要なのかを明らかにしたいと考え、卒業研究を進めていきました。具体的には、地域で生活をする当事者の方に、病院を受診するまでのプロセスや思いをインタビューしました。

研究活動は、実習や国家試験の勉強に加え、就職活動とも平行して進めなくてはならず、時間・体力・気力の面で大変な時期もありましたが、担当の先生が丁寧に指導していただき、論文にまとめることができました。また、卒業研究発表会では、自分の論文をわかりやすく人に伝えるために、何度も練習を重ねて挑んだため、終わったあとの達成感はひとしおでした。

卒業研究を通して、自分のテーマを深く掘り下げる作業は、とても根気がいりました。しかし、興味のある分野をとことん探求できるので、4年間で一番充実した毎日を送ることができました。粘り強く研究室に通った日々は、今後の私の糧になると思います。(Hさん)

